

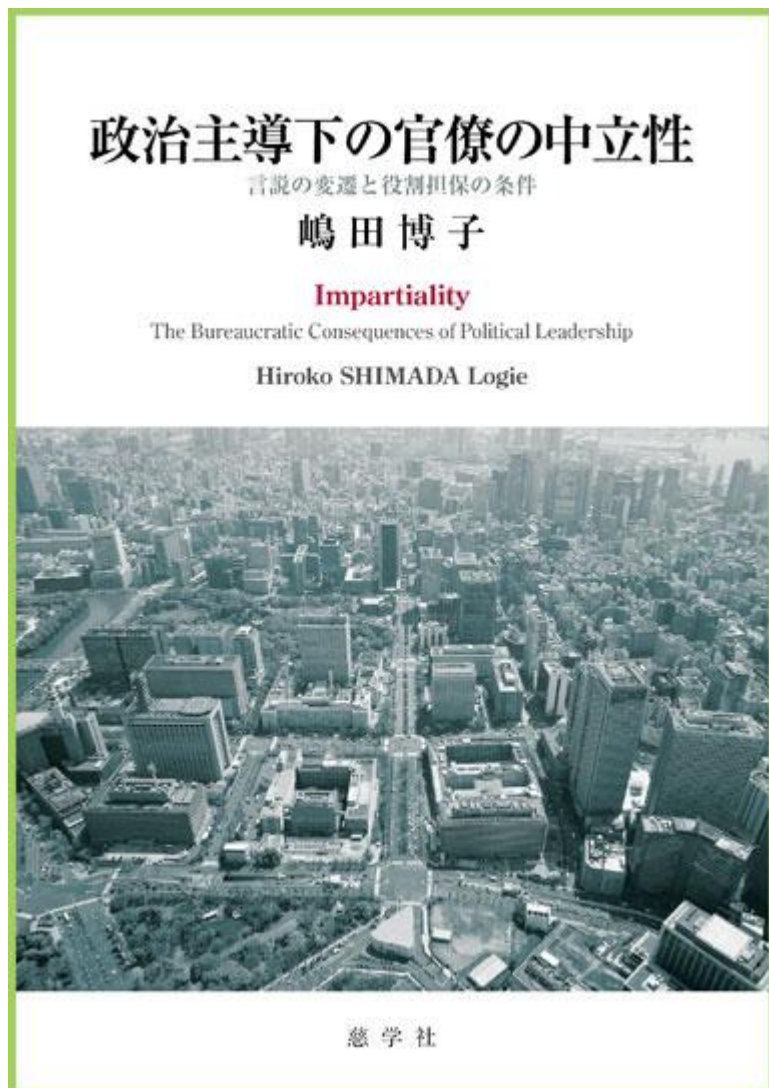
政治主導下の官僚の中立性

言説の変遷と役割担保の条件

著者：嶋田博子 京都大学公共政策大学院教授（人事政策論）

ISBN978-4-909537-03-4 C3031

定価 [本体 5,800 円+税] A5判 上製カバー 308 ページ



● 著者紹介

嶋田博子（しまだひろこ）

1964年 山口県生まれ

1986年 京都大学法学部卒、人事院入庁

在英国長期在外研究員（Oxford 大学 M.A.（哲学・政治・経済））、
総務庁人事局参事官補佐、外務省在ジュネーブ国際機関日本政府
代表部一等書記官、立命館大学大学院公務研究科教授、人事院事
務総局総務課長、同給与局次長、同人材局審議官等を経て現職

〈主要論文〉 「公務の『中立性』はどう理解されてきたか—
政策立案における行政官の役割確保に向けた考察」（立命館大学
『政策科学』24巻4号、2017）、「在ジュネーブ国際機関採用の傾
向と対策」（外交フォーラム8月号、2001）ほか

共著 村松岐夫編著『公務員制度改革—米・英・独・仏の動
向を踏まえて』（学陽書房、2008）ほか

「公務の中立性」とは何か

社会の激変と政官バランスのあり方

諸外国での取り組みも踏まえて検討

〔主要目次〕

目次

序章 新人官僚は何を誓ったのか

第1章 「公務の中立性」という言葉はどう理解されてきたか

第2章 「公務の中立性」への批判はどこに帰着したか

第3章 他国の「公務の中立性」はどう伝わってきたか

第4章 「公務の中立性」はどうすれば守られるのか

終章 政治主導下の「公務の中立性」とは

資料 国会議事録検索一覧表

参考文献

あとがき

索引